



これらに加えて現在はグローバル競争の激化に起因する、行き過ぎた効率主義、短期成果主義（数値主義）の下で、日本社会は自らをさまざまな制約で感じがらめに縛っている。タイパ（タイムパフォーマンス）、コスバ（コストパフォーマンス）、コンプライアンス、ガバナンスなどのカタカナの制約が社会を闊歩する。SNSがそれを増長する。

ある精神科の先生から、Z世代と呼ばれる若者たち（10代半ばから20代後半）は、「生きづらさ」を感じているという話を聞いた。モノも情報も豊かなこの時代に何を言っているのか分からぬまま聞き捨てていた。しかし最近、ある全国紙に掲載された大学4年生の投書を読んだ、俄然興味が沸いた。それによればZ世代には共通した想いがある。あらゆる「リスク」を回避することが重要で、そこに「幸福の本質」があるということだ。「リスク」には、就職後の転職や、好きなTVドラマが見られなくなることや含まれる。「苦痛と感ずる障害を避けようとする」のだそうだ。就職採用試験で

「何をしたくないか」を聞いて欲しいという。

「何がしたいのか」ではな

は、「何がしたいのか」ではな

## Z世代と美術

ともと立派なチャレンジャー精神、何

「何をしたくないか」を聞いて欲しいという。

この投書を読んでこの国の将来に不安を覚える大人は少なくあるまい。苦痛や障害は人生につきものであり、それから逃げ

「年」という歴史的恥辱を演出してしまったわれわれ大人たちにご責任があるのではないか。低位安定した政治、ほとほと

「近頃の若者は挑み、乗り越えてこそ人は成長するものだ。」近頃の若者は……「という定型のぼやきが聞こえてくる。しかしこの話を私の大学の一年生に聞いたら、友達

豊かさ、安全、迫りくる戦争危機の不在など、一見「恵まれた環境に甘んじて、経済不振、少子高齢化、環境問題などの課題に抜本的に取り組んで来なかった。もともと日本社会の伝統であった「出る杭は打たれる」という社会風潮に甘んじて、「苦痛」を伴う改革を避けてきた。

「哲学を知ったら生きやすくなった」という漫画本が出ているのを偶然発見

政治も企業も。その典型が「政治とカネ」問題の再来であり、世界で突出した産業界の新陳代謝率の低さだ。

大人にできることは、ぼやくことではない。彼らが出る杭を「育てる」ことなのだ。

（近藤文化・外交研究所代表）